

## Convention Symposium

### English Language Education at the Tertiary Level: The Present and the Future

大学における英語教育を考える：現在そして未来

#### Panelists

Baba, Tetsuo (Tokyo Gakugei U.)

Yabe, Takanori (Mejiro Kenshin Junior High School and Senior High School)

Ueda, Norifumi (Komazawa U., Vice-President of JACET)

#### Panelist/ Moderator

Baba, Chiaki (Teikyo U. of Science, Vice-President of JACET)

2018(平成 30) 年に改訂された学習指導要領下で 3 年間学んできた学生が今年度、入学してきた。大学入試においては、各大学は現行の学習指導要領に合わせた対応を既に行っている。その一方で、総合型選抜や学校選抜型などの年内入試で入学する大学を決定する傾向も出てきている。その場合、面接や小論文等のみで、英語の試験を受けずに大学に入学してくる学生も少なからずいることは否定できない。

本シンポジウムでは、現行の学習指導要領における英語科目の変更点を改めて確認するとともに、特に中等教育（中学校、高等学校）において、生徒がどのような英語教育を受け、大学に送り出されるのかについて、現状把握を行う。それらを踏まえて、受け入れ側の大学では、どのように学生が変化しているのか、改訂された学習指導要領下で学んだ学生は今までと異なるのか、あるいは全く変化はないのか、逆に、年内入試で英語の試験を受験することによる弊害は出ているのかどうか、高大接続と大学の英語教育の実情を概観する。特に、一般入試での入学者の多い大学での一般教養科目としての英語科目の現状、年内入試での入学者が大半を占める大学での教員養成課程の現状についての実情について理解を深める。そして、今後の大学英語教育をどのようにしていくべきか、その方向性について議論を行う。



馬場 哲生 (ばば てつお/ Baba, Tetsuo)

東京学芸大学教職大学院教授。中・高の英語教育（特に文法指導と評価）を主たる領域とし、中学校英語検定教科書の執筆・編集に 30 年以上携わってきた。官民のテスト開発にも取り組んだ。また、英語教員養成コア・カリキュラムの作成において、中等教育部門の統括を務めた。2023 年度より附属竹早中学校長を併任している。



矢部 隆宣 (やべ たかのり/ Yabe, Takanori)

目白研心中学・高等学校教諭。東京学芸大学大学院を修了。修士論文ではライティングフィードバックの種類と学習者の英語力について調査を行った。2019 年から 5 年間、進路指導主任を務め、現在高等学校第 2 学年主任。



上田 倫史 (うえだ のりふみ/Ueda, Norifumi)

駒澤大学総合教育研究部教授。専門は応用言語学、英語教育。第二言語学習者における語彙習得を主に研究している。近年は、新学習指導要領の下での英語力の変化について研究を行っている。JACET 副会長。



馬場 千秋 (ばば ちあき/Baba, Chiaki)

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科教授。専門は、英語ライティング指導と評価、英語授業学、英語リメディアル教育、英語教員養成で、近年は小・中・高の英語教員養成における英語力と指導技術の向上についての研究を主として行っている。JACET 副会長、 JACET SIG 授業学研究会（関東）代表。